

# 人権なら

2026年2月1日

第182号

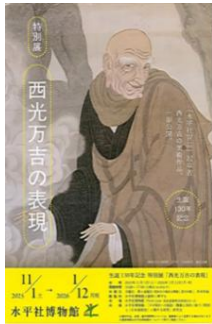
NPO なら人権情報センター

● ひと・まち・生き生き

## 画家・西光万吉の表現を検証

### 研究者4人が生誕130年特別展に合わせ報告

西光万吉生誕130年記念「西光万吉の表現」特別展が11月1日から1月22日まで水平社博物館で開催された。同館と「不可視化への抵抗〈職業と世系に基づく差別〉と〈日本美術史〉に関する研究会」が共催した。



水平社運動家と画家という側面に西光への認識を改めさせる特別展は、多数の作品を展示。西光の画家としての優れた描写力と独自の技法を知らしめることになった。

### 美術史における差別問題の「不可視化」を検証

特別展に合わせ、「不可視化への抵抗」研究会が1月11日、御所市人権センターで発表会を開いた。50人が参加。西光万吉顕彰会代表の飯田敬文さんが「特別展」開催へのお礼を述べた。



研究発表は4本。小田原のどかさんは、西光晩年の自画像、掛け軸「毀釈(きしゃく)」の謎に惹かれ、差別により画業を断念した西光を知ったことで、日本美術史では研究の俎上にも上がらない被差別の可視化や転向の問題などを検証したと話した。

黒川みどりさんは「西光万吉の転向と戦争協力」をテーマに〈西光万吉をとおして転向を考える意味〉について提起。「自立した個に根ざさない国家権力との対決を回避した運動の危険性」や、「日露戦後一天皇制の非政治化による差別の隠蔽」など、天皇制の精神構造との対決を強調したいと語った。

## 日本画、洋画の絵画技術・表現を調査研究

植田彩芳子さん(日本美術史・立命館大学)は「西光万吉の絵画学習」をテーマにズームで報告。西光の略歴の確認や洋画学習と師、日本画学習—日本美術院の画家の確認作業などを調査したと話した。

加藤弘子さん(研究員)は写生図(スケッチ)・模写図・下絵などの調査に従事。昨年7月、「西光顕彰会」における調査でスケッチ(古画を模写したものなど)が数多く発見された。現存する絵画では人物画が多く描かれていると話した。このあと、質疑応答があった。

\*\*\*\*\*

## 確定申告相談会のお知らせ

奈良県中小企業者協会は2月26日から3月10日まで2025年分確定申告相談会を開く。いずれも午前9時20分から、午後は1時20分から、三宅町あざさ苑で。問い合わせは0744-33-3939まで。

月日	曜	対象郡市町
2月26日	木	川西町、三宅町
27日	金	田原本町
3月2日	月	
3月3日	火	奈良市
4日	水	桜井市、天理市
5日	木	天理市
6日	金	大和高田市、香芝市、葛城市、御所市、五條市、宇陀市、北葛城郡
9日	月	大和郡山市、他府県
10日	火	生駒市・生駒郡、橿原市

## 部落政策をめぐる「政治」の発生

### 柳下草太さんが「県民歴史講座」で報告

第5回県民歴史講座が12月9日にあった＝写真。  
柳下草太さん(関西学院大学非常勤講師)が「部落問題政策をめぐる『政治』の発生—1910年代前半の奈良県を中心に」をテーマに報告した。



柳下さん(専門は近代部落史)は「部落改善政策」の時代とされる明治末期から米騒動前までを対象に奈良県における部落問題に関する「政治」の展開について話をした。

### 史実や実態を根拠に部落改善政策を検証

部落改善運動は、従来の研究では水平社運動の克服されるべき実践や思想として把握されてきた。

近年では、すべてが貧困と捉えられてきた部落イメージの多様化や、部落改善運動の再評価がなされる。政策面においては、行政文書、新聞記事などによって解明が進められている。

具体的には、①「部落改善」の時代と奈良県。明治後期における被差別部落の実態(北葛城郡)と調査者の記述から見る部落の状況など。

②大和同志会の登場と政策論の展開として、小川孝三郎(改良派)、松井庄五郎(積極派)、岡本繁、森秀次(消極派)におけるそれぞれの政策や主張。

③矯風会事業の継続と実態として、予算や事業の実施内容、を挙げて説明した。

### 歴史認識における視点の変化が大切

「県議会議事録(1912年)矯風会事業をめぐる議論」や、部落の実態(数値)だけではなく、調査員の記述も紹介。さらに、明治後期における部落の姿とともに、県の部落問題認識と政策理念、実施事業の推移、大和同志会活動や政策論、矯風会の事業などについても説明。とても興味深い内容だった。

## 誇りと権利を奪い返す場

### 夜中存続創設に尽力した高野雅夫さんを偲ぶ

「高野雅夫さんをしのび夜間中学や学校のこれからを考える集い」が11月29日、大阪・住吉区民センターであった。

高野さん(写真)は1939年、旧「満州」生まれ。「戦争孤児」として戦中・戦後を生き抜き21歳で東京「荒川九夜間中学」に入学。1966年に行政管理庁が夜間中学早期廃止を勧告したことに強い怒りを覚え、体の震えが止まらなかったのだという。



### 粘り強い運動で天王寺夜間中学の新設に貢献

1967年から証言映画『夜間中学生』を携え、夜間中学の存続・創設を訴えて全国行脚を行う。地道で粘り強い運動や訴えは1969年6月、大阪市立天王寺夜間中学の新設につながった。

高野さんは「夜間中学は人間としての誇りと権利を奪い返す闘いの場」だと語り、「文字とコトバ」で「学ぶこと、生きること」を問い続けた生涯だった。

### 生徒・卒業生らの熱い思いが溢れた集いに

集いでは、息子の高野大さんが寄せた「父 高野雅夫を語る」が「写真と映像」を背景に読み上げられた。続いて、夜中の生徒・卒業生などパネリストのリレートーク「夜間中学での学び」があった。「夜間中学や学校のこれから」ということでメッセージ交流をした。

韓国から来日した萬稀(マンフィ)さんは2002年に高野さんと出会い、励まし続けられたと悲しみと別れの言葉を述べた＝写真。娘のマウムさんが「おじいちゃんの言葉と想い、教えは、私の中にあると伝えたい」と、ハワイアンフラ「Epilim mai」を披露した。



会場はやさしさと熱い思いに包まれ、感動的な集いとなった。

## 「新あつい壁」観賞し真相を学ぶ

### 「いちょうの会」が「菊池事件」学習会と忘年会

ハンセン病関西退所者原告団「いちょうの会」は12月20日、大阪・西成区にあるユートアイで学習会を開いた。映画「新・あつい壁」の上映と中山節夫監督の講演があった。



映画は菊池事件を基に制作。ストーリーは、ルポライターの青年が事件取材するなかで、ハンセン病患者が犯人にされ、不当な裁判で死刑執行された経過を知る。叔父が「黙って死んでくれ」と頼む。家族親戚への厳しい差別があるためだ。

映画では、教誨師(きょうかいし)が死刑執行後、「彼を人間として扱わずボロ雑巾のように扱った。許してほしい」と懺悔(ざんげ)する場面や、患者の家族であることを隠していた上司が苦悩を明かす場面など、ハンセン病差別の実態を如実に再現している。

### 中山節夫監督が再審実現への熱い思いを語る

中山監督は88歳。1970年に熊本の竜田寮事件を取り上げた「あつい壁」を制作。菊池恵楓園近くで育ち、入所者との交わりでハンセン病問題に触れてきた生涯を振り返り、2007年に「新・あつい壁」を制作。菊池事件の再審実現まで高齢を押して頑張ると決意を述べた。



### 「死ぬときは故郷で」と101歳で療養所を退所

忘年会では、「死ぬときは故郷で」と101歳で栗生楽泉園を退所し大阪に帰ってきた北野貞晴さんのハーモニカ演奏(写真)や、家族訴訟原告団の黄光男さんの歌唱などで盛り上がった。



菊池弁護団の大槻倫子弁護士は、裁判所が再審の有無を決める緊迫した状況だと報告した。

## マイクロアグレッションを考える

### 部落問題全国交流会で大槻政宏さんが報告

部落問題全国交流会の事務局会議が12月13日、京都市いきいき市民活動センターであった。今回は月刊雑誌『部落解放』(2025年2月号)に掲載された「特集・部落問題とマイクロアグレッション」を事務局メンバーの大槻政宏さんが報告。参加者で議論した。

### マイノリティの人たちにとっては重要な概念

大槻さんは、マイクロアグレッションはマイノリティの人たちにとって重要な概念だとして理解され、広がりを見せている。部落出身者も十人十色、一人称単数で語ることに賛同する。

BURAKUHERITAGEが言う通り、差別を解消する発信の主体は双方だと考えるが、部落問題以外への自らの問題意識が問われている。



### 自分を変えることから社会を変えていこう

昔は解放運動の大きな目標は人間を変えることだった。識字も水平社も究極の願いは「自分を変えることから真の仲間を築き社会を変える」という大きな課題があった。部落の若者を中心に、部落にルーツを持つ人も持たない人も、部落を取り巻く様々な状況を良くしていこう。自分と社会を変えていこう、という動きが生まれている、と実感するとともに希望を感じたと。

### 「同和こわい考」を原点に白熱した意見交換

議論では、奈良の「差別と人権」研究集会で行ったアンケート結果で共感的な意見が多かったことや、概念がマジョリティ側の人たちにはなびくのかどうか。

また、アライ(仲間)になろうとする人々を運動は切り捨ててきたことなど、「同和こわい考」を原点にして集まった本交流会のメンバーで、次回以降も論議していこうとまとめた。

## 自分らしく生きる社会の実現へ

### ピープルファースト神奈川大会に1157人結集

ピープルファースト(以下、PF)神奈川大会が11月29、30日に開催されました＝写真。「ひまわり」からは総勢



31人が参加しました。大会参加者は1157人に上り、会場は賑やかで陽気な雰囲気に包まれていました。

プログラムは「全体会」「交流会」「分科会」の3つで構成され、全体会では、各都道府県のPFによる活動報告のほか、「津久井やまゆり園の事件から学び、すべてのいのちが輝く社会を目指して」と題して基調講演があり、自分らしく生きることができる社会の実現についてのパネルディスカッションも行われました。

### 十分とは言えない地域生活に向けた移行の実態

夜の交流会では、食事を楽しみながら参加者同士の親睦を深めました。夏の研修でお世話になった「ハ

#### 編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

社会のあちこちでコミュニケーション不全が起きている。ネット空間では乱暴極まる言葉が飛び交う。誹謗中傷や差別、ヘイト言動が溢れる。言論でも争点をはぐらかし、まともな受け答えをしない。一方的で話が通じない。丁寧な議論も建設的な論争もない。嘆かわしいことに、勇ましい言葉に酔いしれ、溜飲を下げる人も。デマ情報を無批判に受け入れる人も多い。会話も対話も他者との距離感がつかめず、成り立たない。結果、摩擦や対立が生じ、争い事に発展する。なぜ、こんなことになるのか。他者とどう向き合い、自分の思いをどう言葉にすれば良いのか。寛容力、包摂力を持ち、協調的な付き合い方が大切だ。信頼関係を育み、豊かな人間関係を築くことに心掛けたい。

ンサラン」の皆さんとの再会は大きな喜びでした。

声をかけていただき、当時の思い出話に花が咲きました。今後も韓国の皆さんとの繋がりを大切にしていきたいです。2日目の分科会では、韓国や台湾の文化や活動内容について話を聞きました。

年一度の大会なので、参加された皆さんの生き活きた表情が印象的でした。全体会で指摘された通り、障害のある方の地域移行はいまだ十分とは言えません。地域生活を謳いながらも、実態は入所施設に近いモデル地区が作られようとしている現状もあります。

障害の有無にかかわらず、お互いを理解し、地域で共に生きられる社会を目指して、これからもPFスタッフとしてメンバーたちの活動を支えていきたいと思いました。

(ひまわり支援員:和田理人)

\*\*\*\*\*

## 絵本と紙芝居の作品を完成

### 旭ヶ丘小学校糾弾闘争と子どもらの成長物語

「絵本と紙芝居の完成を祝う会」が12月14日、旭ヶ丘総合センターであった＝写真。当時、同盟休校で闘った青年や父母の会メンバーら関係者80人が集まった。



絵本と紙芝居の作品は、比曽の人たちが村ぐるみで闘った旭ヶ丘小学校糾弾闘争と子どもたちの成長物語だ。もう一つは交流のある高知市の部落から始まった教科書無償化闘争の物語だ。

作品は地元の教員や地域の人たちが教材にしたいと協力。紙芝居作家、畑中廣之さんが作画した。

#### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター  
〒636-0223  
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1  
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833  
E-mail:info@nponara.or.jp  
http://www.nponara.or.jp/